

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	高知大学
連携大学名	香川大学、高知工科大学、高知県立大学
事業名	地域医療を支える四国病院経営プログラム

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	「実践力」を備えた病院経営トップマネジメントと病院経営に参加する現場責任者を養成する。「即戦力」を鍛えるカリキュラムを新たに導入することで、待ったなしの病院経営分野に突破力がある人材を送り込む。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	・病院経営プログラム開講前講義:8名(うち医師4名、看護師4名、技師長など)	・四国病院経営プログラム新規受入れ:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・病院経営戦略センターを設置 ・四国病院経営シンポジウムを開催(参加者数200名)	・四国病院経営プログラム新規受入れ:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・四国病院経営シンポジウムを開催(参加者数200名)	・四国病院経営プログラム新規受入れ:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・四国病院経営シンポジウムを開催(参加者数200名)	・四国病院経営プログラム新規受入れ:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・四国病院経営シンポジウムを開催(参加者数200名)
	定性的なもの	・国内外のプログラム調査・視察 ・連携大学との調整 ・プログラム立案 ・評価委員会、医学部教授会、病院運営委員会での病院経営プログラムの説明				
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの		・四国病院経営プログラム修了者数:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・四国病院経営シンポジウムの参加者数200名	・四国病院経営プログラム修了者数:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・四国病院経営シンポジウムの参加者数200名	・四国病院経営プログラム修了者数:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・四国病院経営シンポジウムの参加者数200名	・四国病院経営プログラム修了者数:15名(うち医師6名、看護師6名、技師等) ・四国病院経営シンポジウムの参加者数200名
	定性的なもの					
アウトカム (成果、 効果)	定量的なもの			四国病院経営プログラムの修了者:高知大学医学部附属病院における各診療科、コメディカル、事務部門において各1名以上		四国病院経営プログラムの修了者:高知大学医学部附属病院における各病棟単位、外来部門において各1名以上
	定性的なもの	高知大学、香川大学の両附属病院における各病棟単位、外来部門における経営意識の醸成	高知大学、香川大学の両附属病院における各病棟単位、外来部門における経営意識の醸成	高知大学、香川大学の両附属病院における各病棟単位、外来部門における経営意識を持つ者の増加	高知大学、香川大学の両附属病院における各病棟単位、外来部門における経営への問題提起の増加	高知大学、香川大学の両附属病院における各病棟単位、外来部門において経営への問題提起の増加

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業の実施に当たっては、学長、病院長等のリーダーシップの下、責任体制を明確にした上で全学的な実施体制で行うこと。また、事業期間終了後も各大学において、長期的な展望に基づく具体的な事業継続の方針・考え方について検討し、自立化した事業体制を構築すること。	学長の下に評価委員会を設置し、進捗状況进行评估する。医学部長(医科学専攻長を兼務)が実施責任者として病院長の協力の下、プログラムを実施する。医科学専攻公衆衛生学修士(MPH)コース内に新たに開設される本プログラムは大学院の正式な科目として開講される。但し、本プログラムのみを実務者が受講し、修了証を授与できるよう整備する。なお、受講のための適切な受講料を設定する。
②	自己点検・評価や外部評価を実施し、事業の改善を行いつつ、全国の模範となる体系的な教育プログラムを展開すること。その際、受講しやすい環境整備に配慮するとともに、修了者のキャリアパス形成につながる体制を構築すること。	プログラム委員を中心に自己点検を行いつつ、外部委員を多数含む評価委員会において進捗状況进行评估する。これまで、四国5大学で進めてきたe-learningによるコンテンツ共有のプラットフォームを活用しつつ、さらに、専門的に内容を作り上げることで、より広い受講者層にプログラム内容の一部を提供可能にする。
③	事業の実施状況や成果等を可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信するとともに、構築した教育プログラムの他大学・大学病院への普及に努めること。	上記で、整理した内容について、一部は一般経済情報誌等で、デジタルコンテンツ、あるいは紙媒体として広い読者層に情報提供する。四国5大学のみならず、類似した環境にある国立大学病院を有する大学等に対して、教育プログラムを波及させる。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(充実を要する点)	対応方針
公衆衛生学修士コースが母体となっているが、公衆衛生学の学位は病院経営支援というテーマとの関係性に乏しい。	欧米においては、公衆衛生大学院で病院経営に特化したコースをMPHコース、MPH-MBAコース、あるいは公衆衛生大学院に開講するMBAコースとして開講している例が散見される。本邦においては、MPHコースのこのような使い方が知られていないため、現在、高知大学が保有するリソースとして最も病院経営に近いMPHコースを母体として、病院経営プログラムを包含する計画である。このような形が知られるようになることで、経営学のみバックグラウンドでは教授できない医療の背景を十分に持った立場からの病院経営プログラムを提供する我が国のモデルとなり得る。
地域性を考慮しつつも、他大学との連携方法や連携による効率的な事業の実施方法が不明確である。	四国唯一のMPHコースを母体とするため、ここに開講されている講義に追加の形で病院経営プログラムを開講し、香川大学、高知工科大学、高知県立大学のそれぞれの強みを持つ内容について本学において非常勤講師としての講義を依頼する。一方で、それぞれの大学で開講している関連科目について、開放科目としての受講を可能にする。